

CO₂と経営

14

環境と財務の「見える化」へ

サークルKサンクスは1990年度の店舗電気エネルギー消費原単位対比で2010年度に23%削減するというコンビニエンスストア業界の自主行動計画目標を昨年度に達成しているが、年間のCO₂排出量のデータについては公表していない。サークルKサンクスの財務状況(図1)では、昨年度の売上高は2133億円、2004年度から順調に増加している。一方の当期純利益は05年度から減少傾向だったが、昨年度はやや持ち直したようだ。また、図2のユーレット(<http://www.ullet.com/3337.html>)の「コンビニエンスストア編③ サークルKサンクス」の

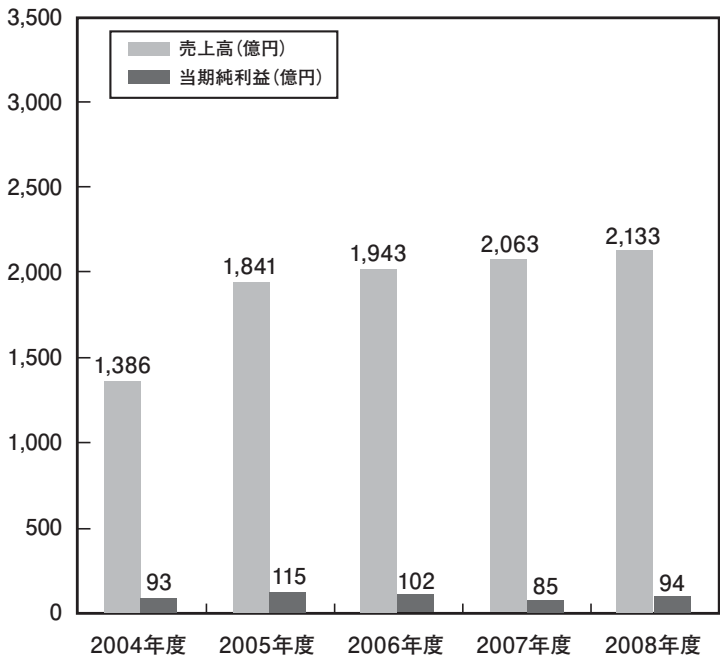
コンビニエンスストア編③
サークルKサンクス

図1 サークルKサンクスの財務状況とCO₂排出量の推移
(ユーレット<<http://www.ullet.com/3337.html>>を基に作成)

店舗規模
増大でも 高効率化で電気使用量低減

のを買いたい」「お弁当を温めてほしい」というケースも多く、レジ袋の削減は容易なことではないが、マイバッグなどが普及し、レジ袋が不要であるとの考えも広がりつつあるという。各店舗で

は、入り口ドアにレジ袋削減のポスターを掲示しているほか、開店イベントの景品としてマイバッグなどを配布している。また、CO₂削減に貢献する取り組みとして、同社の会員クラブ「カルワザクラブ」のポイント

つき40ワット1本のみを使用。横浜市内の店舗ではLEDを使用したボール看板の店舗実地検証を実施している。LEDの導入

を使って気軽に日本のCO₂排出量削減に寄与することができ活動に参加できるサービスを開始。08年12月から昨年2月までの約3か月間で約77%分のCO₂排出権が償却されたという。物流部門での取り組みでは、天然ガス車を53台、ハイブリッド車を17台導入し、環境負荷の少ない配送を進めている。06年からは、一部の車両で省エネタイヤを採用するなど、物流全体の環境負荷低減を図っているところだ。1台の車両に温度帯の異なる2室を設ける「2室式温度管理車輻」や、交通量の比較的

は対象外の地域でも積極的に排気ガスの少ない車輻を採用している。店舗規模の増大や設備の大容量化の影響で通常は電気使用量が年々増加するが、省エネ型設備の採用により店舗の電気使用量は減少傾向にあるという。現在の店舗設備仕様では、天井照明は売場ゾーンや時間帯別による調光と、店外照度を感知しての調光を組み合わせている。冷蔵設備では、インバータ冷凍の低圧制御を実施し、飲料冷蔵庫の扉には露点温度感知によるヒータ制御を導入している。外壁の看板照明には、ユニットに

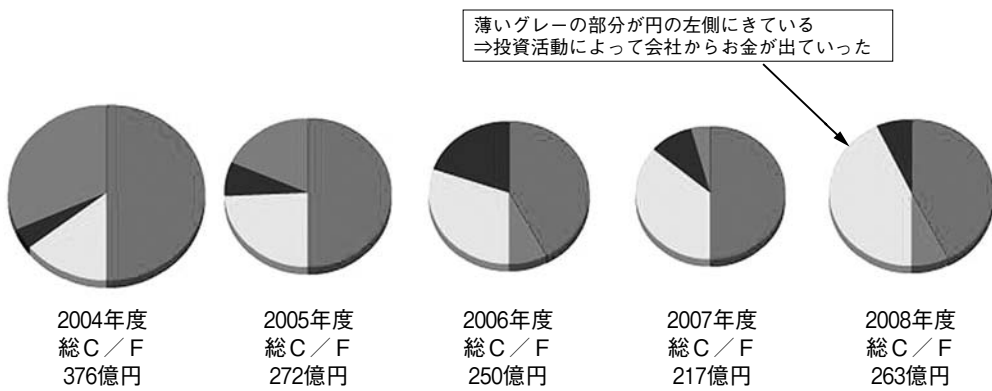


図2 サークルKサンクスのキャッシュフロー計算書(C/F)の円グラフの特徴
(ユーレット<<http://www.ullet.com/3337.html>>を基に作成)